

経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県川口市 医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員 学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド透I未ガ	救臨が災地
人口(人)	建物面積(㎡)	不採算地区病院	看護配置	
607,105	36,984	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン(放射線)診療

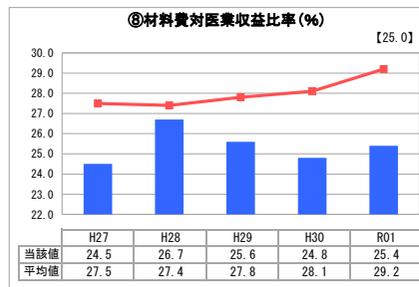
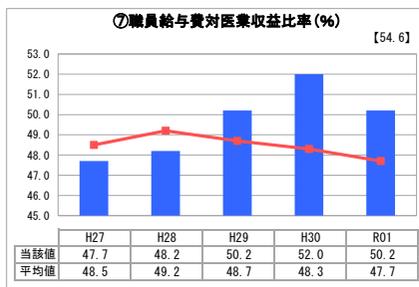
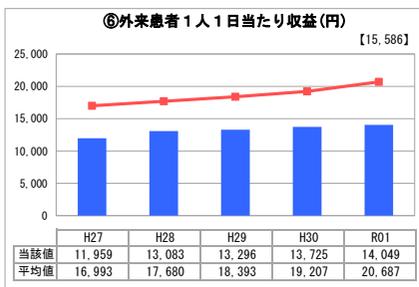
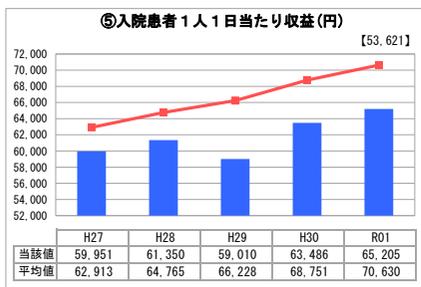
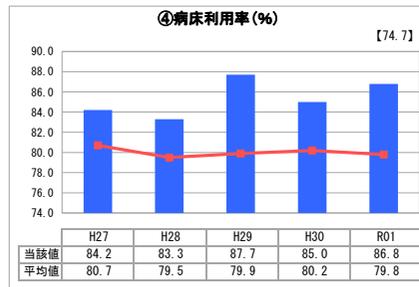
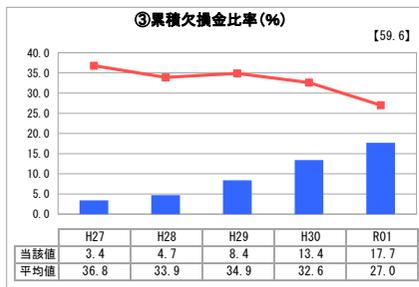
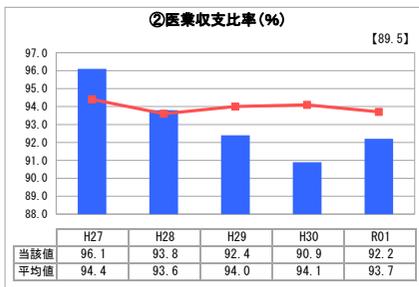
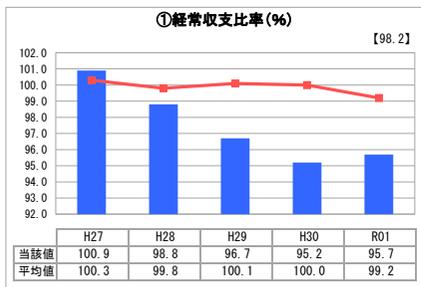
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
539	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	539
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
539	-	539

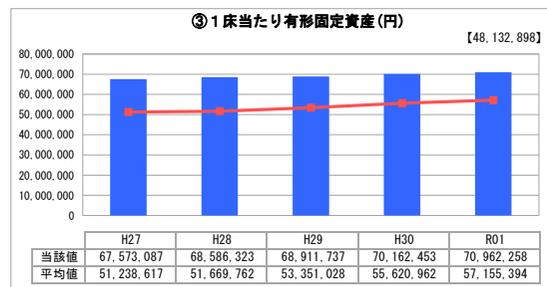
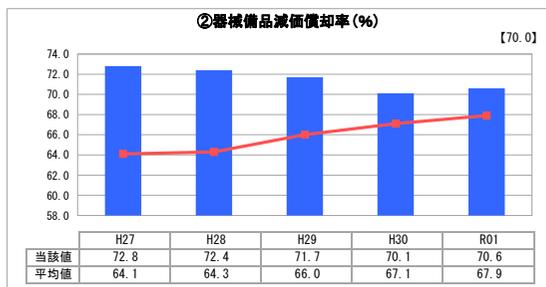
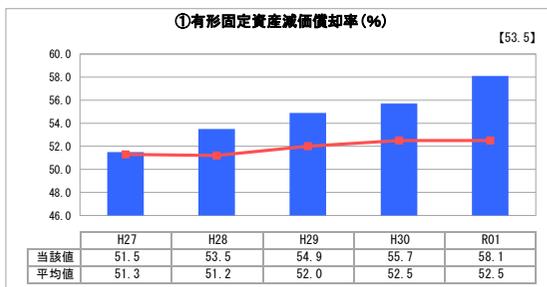
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

【施設認定】日本医療機能評価機構認定施設、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター(三次救急指定病院)、災害拠点病院(基幹災害医療センター)、臨床研修指定病院(厚生労働省)、地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院、DPC対象病院(標準病院群)、エイズ診療協力医療機関、結核指定医療機関、被爆者一般疾病医療機関、埼玉特別機動援助隊(埼玉SMART)登録、災害派遣医療チーム(埼玉DMAT)指定病院

【特殊診療科】救命救急センター、周産期センター、画像診断センター、総合健診センター

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院患者の増加、入院期間の適正化等に努めた結果、④「病床利用率」及び⑤「入院患者1人1日当たり収益」が増加していることから、①「経常収支比率」及び②「医療収支比率」が改善しています。

⑥「外来患者1人1日当たり収益」は、外来患者への院外処方を実施しているため、院内処方を実施している病院を含めた類似病院平均値と比較すると下回る傾向にあります。

⑦「職員給与費対医療収益比率」は、診療体制の強化や診療体制維持に伴う人件費を要したため、類似病院を上回っています。

⑧「材料費対医療収益比率」は、高額薬剤の使用及び手術件数の増加に伴い増加しています。

2. 老朽化の状況について

①「有形固定資産減価償却率」及び②「器械備品減価償却率」は、保有する償却対象資産の使用年数が進んでいるため、減価償却率が増加しています。建物は、計画的に改修していく必要があります。また、器械備品は、稼働率に応じた配置の見直しや、償却期間が終了した備品の計画的な更新を進めていく必要があります。

③「1床当たり有形固定資産」は、立体駐車場、看護師住宅及び2つの附属診療所を保有していることなどから、類似病院平均値を上回る傾向にあります。

全体総括

「経常収支比率」及び「医療収支比率」の改善に向け、救急応需強化に加え、地域連携の強化による新規入院患者の獲得、手術件数の増加、入院患者への早期退院支援によるDPC入院期間の適正化等に取り組むことで入院収益の確保につながり、令和元年度の比率は改善しています。

引き続き、適正な診療体制に取り組むとともに、保険収載品以外の診療材料の使用を抑制するなど材料費を主とした経費の縮減にもいっそう努めています。

また、建物、設備、機器の整備にかかる投資の適正化と標準化を積極的に推進していきます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。